



長かった夏もようやく終わり、朝晩は長袖が必要な気候になってきました。それでもこの日の名古屋の最高気温は28.5℃を記録、少し暑さを感じながらも乾いた空気の中での気持ちのいい観察会となりました。

ヒガンバナが見ごろを迎えていました。ヒガンバナは種ができず球根で増えるという説明を聞きました。シヨウブの葉にウンモンオオシロヒメシャクがとまっていた。スイカズラを食草とするシャクガの仲間です。2年前に数が少なくなって保護したオオオナモミは、驚くほど増えて数えきれない実をつけていました。



ヒガンバナ



ウンモンオオシロヒメシャク



オオオナモミ

オオオナモミの葉の裏にはアワダチソウグンバイの成虫と幼虫が見られました。ジュズダマの白い実と黒い実を水に落とすと白い実だけが水に浮かんで流れて行きました。水路近くでシンジュキノカワガの幼虫が歩き回っていました。近くには食草であるシンジュの木は見られず、取り急ぎシンジュを探して移しました。

アワダチソウグンバイ
の成虫(右)と幼虫

ジュズダマの実を水路に落とす



シンジュキノカワガの幼虫

シンジュの木にはカナムグラが巻きついていました。カナムグラの茎の棘はすべて下向きに生えているのがわかりました。畑に移動してラッカセイを見ました。ラッカセイの花の柄が、地中に潜って実をつけるのを実際に見るのは初めてという参加者がほとんどでした。子どもたちが捕まえたのはオオカマキリでした。



カナムグラ



ラッカセイの実



オオカマキリ

畑ではそのほかコミカンソウも観察しました。つどいの丘のムクノキには、実が例年よりもたくさんついていましたが、まだ緑のものばかりでした。来月の観察会では食べられるかもしれません。湿地の入り口では、先月キノコを案内してくれた参加者が、鏡を使ってキノコの傘の裏側のヒダを映し出してくれました。



コミカンソウ



ムクノキの実



キノコの仲間



湿地では**シラタマホシクサ**がたくさん咲いていました。シラタマホシクサの花柄は強度を高めるためにねじれた構造になっていて、人差し指と親指ではさんで下から上へスライドさせると、頂上の花が回転するのを確認しました。湿地ではそのほか**サワシロギク**や**スイラン**、**サワギキョウ**を観察しました。田んぼに移動すると北側の水路の石に**ドロバチ**の巣が作られていました。中から出た形跡がないので、中でハチの幼虫が育っていると思われました。**ツマグロヒョウモン**の**メス**がやって来て地面に降りました。これはもともと関西以西に分布していたものが徐々に北の方へ生息域を広げているチョウです。



湿地のシラタマホシクサ



シラタマホシクサの特徴を確認



サワシロギク



スイラン



ドロバチの巣



ツマグロヒョウモンの♀

田んぼでは翌土曜日に稲刈り予定とのことですが、それにしては**イネ**の穂が頭を垂れていないと参加者の意見が出ました。田んぼの周辺では、**ポントクタデ**、**ジソクサ**、**ハッカ**などを観察しました。子どもたちがカエルに気づくとみんな夢中で追いかけてきました。何匹かは捕まえられましたが全て**ヌマガエル**でした。



イネ



ポントクタデの花



ヌマガエル

この日は至るところで**アベマキ**の**ドングリ**や殻斗が落ちているのを見ました。落ちているドングリはアベマキばかりで、コナラが落ちるには少し時期が早いとのことでした。**ヤママユ**の繭を拾ってみると、大きな穴が繭のまん中に開いていて、中の方は出たあとでした。そのそばで見つけたキノコの傘の裏側や柄の中に夥しい数の**幼虫**がひしめいていました。拡大してみると頭部が黒いのがわかりましたが脚の有無などは小さすぎて確認できず、残念ながら何の仲間の幼虫かを推測することはできませんでした。



アベマキのドングリ



ヤママユの繭の抜け殻



キノコの柄の中の幼虫

観察項目(観察順):ヒガンバナ,ウンモンオオシロヒメシャク,オオオナモミ,アワダチソウグンバイ,ツチイナゴ,ススキ,コナラのキノコ,ジュズダマ,シンジュキノカワガの幼虫,カナムグラ,ニホントカゲ,ジョロウグモ,シロカネイソウロウグモ,ピーマン,トウガラシ,ラッカセイ,キンミズヒキ,キノコの仲間,トビズムカデ,オオカマキリ,コミカンソウ,ムクノキの実,ボクトウガのフン,シラタマホシクサ,サワギキョウ,スイラン,シロサワギク,ミゾソバ,ヒヨドリバナ,ドロバチの巣,ヌマガエル,オオシオカラトンボ,イネ,ツマグロヒョウモンのメス,ニオイワチチタケ,ヒメアカネ,シソクサ,ポントクタデ,ハッカ,ヌマガエル,アベマキのドングリ,ヤママユの繭の抜け殻,キノコの中の幼虫,カケスの声